



若さあふれる力強い演舞で観客を魅了した北里三源色

Towada Spring Festival 2013

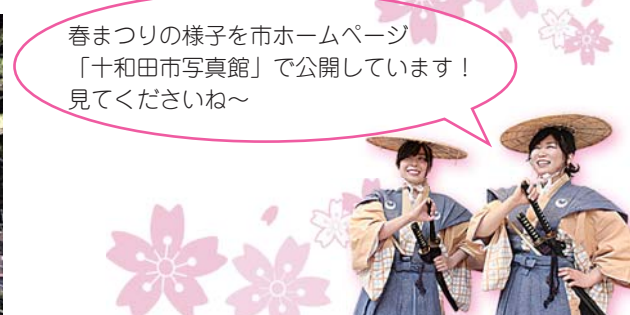
駆け抜ける馬、躍動する舞、甦る古の魂

十和田市春まつりは4月20日から5月6日にかけて桜の広場や中央公園緑地、太素塚などを会場に「桜流鎬馬」や「Yosakoi 元気まつり 2013」などが開催されました。

中でも5年に1度行われる太素行列は、第14代南部藩主利綱公が三本木に訪れた様子を再現したもので、いにしえの大名行列の雰囲気味わおうと多くの市民らが詰め掛け、武士装束に身を包んだ行列の行方を見守っていました。



- 1 2 藩主利綱公役には小山田市長、新渡戸十次郎役には新渡戸常憲同記念館館長が扮し、侍や小姓など約130人の行列が通りを練り歩きました
- 3 奴頭の拍子木に合わせて毛槍奴がやりを投げ合う「毛槍振り」。行列を盛り上げていました
- 4 5 6 太素塚ステージでは、北園小・十和田中・三本木高の吹奏楽部が強風の中、演奏を披露。楽譜が飛びそうになりながらも懸命に演奏する姿に観客から大きな拍手が送られました
- 7 106人が参加した「太素ウォーク2013」。疲れた表情を見せる児童も14kmコースを頑張って歩きました
- 8 「乾杯！」冷え込んだ夜でも十和田市青空商店組合が営む屋台でお花見。大人から子どもまで楽しむ姿が見られました
- 9 ライトアップされた夜桜。昼とは違う幻想的な雰囲気を醸し出していました



春まつりの様子を市ホームページ「十和田市写真館」で公開しています！見てくださいね～



市現代美術館には多くの人出。満開の桜のもと写真撮影を行う観光客



TMG48 (トワダもてなしガールズ48) のブース。おもてなしの心で観光客をお出迎え

桜 はいつ咲くのか。なかなか咲かない桜の木を見上げる日々が続いた今年の春。昨年より1日早い4月28日に開花宣言が行われ、5月2日に満開となった桜は、見ごろを迎えたままゴールデンウィーク後半に突入。県内の桜の名所が低温の影響で開花が遅れる中、開花が早かった十和田を訪れる人が増えました。

好天に恵まれた5月4日には、市現代美術館の1日の入場者が過去最多の4892人を記録。また、遅咲きに対応し、当初6日までの予定だった市役所展望ロビーの開放などを8日までに延長。多くのかたが訪れ、十和田市春まつりの人出が前年比12%増となりました。

ゆっくりと訪れた春 ゴールデンウィークに桜満開

- 1 馬の銅像に乗りながらポーズを決める園児たち「写真を撮るなら」「今でしょ!!」
- 2 高校生たちも桜並木を散策。桜を見上げて笑顔満開
- 3 市役所展望ロビーを訪れたかわいいお客様。眼下に広がる色鮮やかな景色に歓声を上げていました
- 4 満開の桜の下、登校する中学生
- 5 路上に落ちた桜の花を小さな手いっぱい集める子ども

